

ター得苗率は五月播を頂点として前後に次第に減少している。これは3、4月まきは密植となつて徒長苗多く、6、7月まきは生長不足で過小苗が多かつたためであり、グロブルス、ロストラータ及びカリグナの得苗率が少ないのも過小苗が多かつたからである。苗の形質については、苗高、根元径及び比較苗高の何れも3、4月まきとその後は相当のひらきがあり、重量は5、6月と激減する。グロブルスは台風による衰えが甚しいから論外としてロストラータ7月まきはロプスター6月まきと形質が大體似ている。

4. む す び

I. ユーカリ山行苗の大きさの基準を20cm以上と

仮定して、春、梅雨期及び秋の植栽季節迄に基準苗高に達する播種時期の範囲を調べた。

II. 梅雨期に造林するためにはロプスターは2月に播けば良い。

III. 秋造林するためにはロプスター及びグロブルスは3月～6月に播けばよい。

IV. 7月まいて秋造林出来るものはロストラータで他のロプスター、グロブルス及びサリグナは間に合わない。

V. 台風に対して、ロストラータは最も強く、グロブルスは非常に弱い。ロプスターとサリグナとは中庸である。

ユ ー カ リ 樹 の 種 類 別 挿 木 試 験

佐賀県林業試験場 熊 瀬 川 忠 夫

緒 言

本樹は種子を多量に産するが、その種子の入手困難な今日、また優良個体の増殖の場合如何しても挿木等に依る無性繁殖法が必要になつて来る。本樹はまた非常に種類が多いが、如何なる種類が如何程の活着率を示すか、また発根促進剤を使用した場合如何なる成績を示すか等大いに必要と思われたので、以上の事につき挿木に関する予備試験を7種類について行つてみた。

材料及び方法

試験には *Eucalyptus robusta*, *Euc. grandis*, *Euc. rostrata*, *Euc. globulus*, *Euc. gigantea*, *Euc. viminalis*, *Euc. salicifolia*. の7種類を用いた。

(1) 試験区 種類如に無処理区、ヘテロオウキシン処理区と、計14区を設けた。

(2) 挿付期 無処理区は昭和29年7月7日に、処理区はヘテロオウキシン0.1%溶液に穂木の下部約8cmを24時間浸漬後翌8日に挿付けた。

(3) 穂木 各種共1年生苗木の側枝で長さ約15cm、太さ約0.3cmのものを用いた。

(4) 穂拵 無処理区は各種共穂木を2方切りに削り早目に挿付け、処理区は同様に穂拵をした後ヘテロオウキシン溶液に浸漬後そのまま挿付けた。またそれぞれ穂木には葉片を2～3枚づつ残した。

(5) 挿付地 佐賀県林業試験場苗畑で平坦な日当り良

好な場所である。土地は黒色の壤土であり、耕耘後1回の降雨を待つて挿付けた。挿付け間隔は8cm×10cm、深さは5～10cmである。

(6) 管理 挿付後は処理無処理区共約1ヶ月間高さ約25cmに日覆を施した。

結果及び考察

10月18日に掘取調査した結果は第1、2、3表の通りである。

(1) 活着状態 無処理区の各種別活着状態は第1表の通りである。即ち *Euc. grandis* が最も良い成績を示している。この内 *Euc. globulus*, *Euc. gigantea* は共に1本づつ生きてはいたものの発根も上生長も全然していない所をみると他の不活着種と同様挿木困難な種類と思われる。処理区の各種別活着状態は第2表の通りである。即ち *Ruc. robusta* が最も良い成績を示している。本処理区でも4種類は1本の活着もみながつた。処理区、無処理区につき各種別活着状態を比較してみると *Euc. grandis*, *Euc. rostrata* の2種はヘテロオウキシンに依る効果はほとんど見られないが、*Euc. robusta* では処理区は無処理区の2倍以上の活着率を示している。

(2) 発根状態 無処理区の発根状態は第1表の通りであり3種共あまり変りない。処理区については第2表の通りである。*Euc. rostrata* は挿付本数少なきため速断し難いが、*Euc. robusta*, *Euc. grandis* は無処理区に比してその効果は大である。

(3) 萌芽状態 無処理区別また各種別にもほとんど

第 1 表 ユーカリ樹無処理区の各種類別活着状況

No.	挿穂種別		種 類	挿付本数 (本)	活着残存本数				活着率 (%)	挿木苗1本 本当り発根数		挿木苗1本 本当り萌芽数		上 長 生 長	
	穂木	長さ (cm)			発根 (本)	カルス 丈 (本)	其の 他 (本)	計 (本)		範囲 (本)	平均 (本)	範囲 (本)	平均 (本)	範 囲 (cm)	平均 (cm)
1	側 枝	13~15	ロブスタ・ユーカリ	58	21	2	0	23	39.7	0~6	2.4	0~3	1.4	5.0~34.0	20.1
2		〃	グランデス・ユーカリ	81	48	3	3	54	66.7	0~11	2.8	0~2	1.7	0~33.5	11.7
3		〃	ロストラタ・ユーカリ	8	2	0	1	3	37.5	3	3.0	2	2.0	13.0~16.0	14.5
4		〃	グロブルス・ユーカリ	47	0	0	1	1	2.1	0	0	1	1.0	1.5	1.5
5		〃	ギガンテア・ユーカリ	16	0	0	1	1	6.3	0	0	0	0	0	0
6		〃	ピミナリス・ユーカリ	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7		〃	サリシフオリヤ・ユーカリ	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(備考) 挿付期日 昭和29年7月7日 掘取調査 昭和29年10月18日

第 2 表 ユーカリ樹、ヘテロオウキシン0.1%溶液処理区の各種類別活着状況

No.	挿穂種別		種 類	挿付本数 (本)	活着残存本数				活着率 (%)	挿木苗1本 本当り発根数		挿木苗1本 本当り萌芽数		上 長 生 長	
	穂木	長さ			発根 (本)	カルス 丈 (本)	其の 他 (本)	計 (本)		範囲 (本)	平均 (本)	範囲 (本)	平均 (本)	範 囲 (cm)	平均 (cm)
1	側 枝	13~15	ロブスタ・ユーカリ	50	41	0	0	41	82.0	1~20	9.4	1~3	1.5	3.0~42.5	27.8
2		〃	グランデス・ユーカリ	29	19	0	0	19	65.5	1~20	5.8	1~4	1.7	6.0~24.5	15.7
3		〃	ロストラタ・ユーカリ	15	5	1	0	6	40.0	0~4	1.8	0~3	1.2	13.5~28.5	18.1
4		〃	グロブルス・ユーカリ	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5		〃	ギガンテア・ユーカリ	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6		〃	ピミナリス・ユーカリ	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7		〃	サリシフオリヤ・ユーカリ	43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(備考) 挿付期日 昭和29年7月8日 掘取調査 昭和29年10月18日

第 3 表 発根位置別本数及び%

処 理 別	発根位置	最下部のみに発根			最下部及び他 部に発根			下部以外に発根			計		
		1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
		無 処 理 区	(本) (%)	11 52.4	31 64.6	2 100	10 47.6	17 35.4	0 0	0 0	0 0	0 0	21 100
処 理 区	(本) (%)	14 34.1	5 26.3	4 80.0	27 65.9	14 73.7	1 20.0	0 0	0 0	0 0	41 100	19 100	5 100

差異は認められない(第1, 2表)。

(4) 発根位置 発根している各種類別, 処理別の苗木全部を発根位置別に分類したものが第3表である。即ち無処理区では2種類共『最下部のみに発根』が多いが, 処理区では『最下部及び他部に発根』が多くなっている Euc, rostrata は苗木数が少ないので一応対象外にした。

(5) カルス形成 活着した各種別の苗木を通じてカ

ルス形成はほとんど行われていない。

(6) 生長状態 無処理区, 処理区の各種別生長状態は第1表, 第2表の通りである。即ち3種類の内では Euc, robusta が生長は最も良好である。また無処理区と処理区について各種別の生長状態を比較してみると何れの種類も処理区は無処理区に比して良好なる生長状態を示している